飛び出せ学校

この新聞は、久住小学校の６年生（赤木尚美教諭、菅カオリ教諭＝16人）が、大分合同新聞の記者と一緒に作りました。

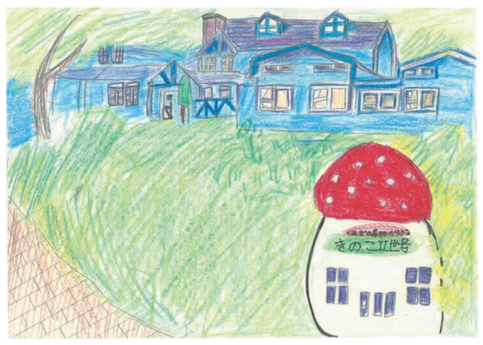
大分合同小学生新聞

発行者
竹田市
久住小学校
6年生

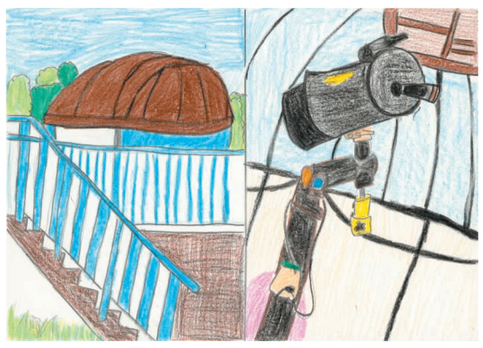
久住の自慢の自然

私たちが住んでいる竹田市久住町は、豊かな自然が自慢です。久住の爽やかな気候や、おいしい空気を求めて、たくさんの観光客が訪れます。その中でも、久住小の６年生がお薦めするスポットを紹介したいと思い、取材に行きました。実際に見たり聞いたりして、改めて自然の豊かさを感じ、自然を生かした観光産業の創意工夫を学びました。ぜひ読んでいただき、私たちの住む地域の魅力を知ってください。

アットホームなペンション



久住町に36年前からある「ペンションきのこⅡ世号」


広い敷地の中にある天文台

自然を生かした屋外コーナーにあるハンモック

皆さんは、「ペンションきのこⅡ世号」を知っていますか？　久住町に36年前からあるすてきなペンションです。私たちはオーナーの松竹直人さん(72)に話を伺いました。

松竹直人さん

松竹さんは山登りが好きで「高原で仕事をしたい」と考え、41年前に熊本県の南阿蘇で自分の名字をもじった「ペンションきのこ」を始めました。そして5年後、「もっと素晴らしい環境でペンション経営をしたい」と考え、南阿蘇より標高が高く、気候が涼しい久住高原に移り、営業を始めたということです。

きのこⅡ世号は、広い敷地の中にすてきなスポットがたくさんあります。まず、県内の宿泊施設では初めてという専用の天文台があります。晴れた日は、久住の大自然の中、輝くきれいな星たちが見られます。また、バレーボールやバスケットボール、ハンモックなど楽しく過ごせる自然を生かした屋外コーナーを設けています。

松竹真理子さん

さらにオススメは、松竹さんが「雑談の王様」と呼んでいる奥さんの真理子さん(72)です。明るく元気いっぱいな方で、お客さんとおしゃべりしたり、コミュニケーションを取ったりするのが好きだそうです。アットホームな雰囲気があるところも大きな魅力だと感じました。

何度も来たくなる花公園

㊤鮮やかな花のじゅうたんが広がる「くじゅう花公園」㊦花の手入れをする人

竹田市久住町には季節ごとに鮮やかな花のじゅうたんが広がる「くじゅう花公園」があります。標高約800メートルに位置する約22万平方メートルの敷地には、花畑エリアやガーデンエリアなどがあり、変化に富んだ景色を楽しむことができます。

塩手亨さん

私たちが取材で訪れた6月下旬は、ショップ「ローズ・ド・メイ」の前で、ちょうどバラの手入れをしているところでした。

春から秋にかけて500種・500万本の花々が咲き誇る花公園。そこには何度来ても飽きない工夫があります。

園長の塩手亨さん(59)は「毎年花を変えて、景色に違いをつけることで、何度も来たくなるようにしています」と話していました。自然に合わせた景色づくりを心掛けており、魅力がたくさん詰まっていることが分かりました。

花々をよりきれいに咲かせるための工夫は、土にあります。毎年、冬の休園中に新しい土を畑に運び込み、春の植え付けに備えて、ふかふかの畑を準備しています。こうすることによって、それまでの土の中に不足している栄養素や保水力を補うことができ、しっかりとした花が育つようになります。

花公園には県内や九州各地からたくさんのお客さんが訪れています。コロナ禍の前は、全国各地や海外からのお客さんを含め、年間約25万人が訪れていたそうです。皆さんも私たちの住む久住の自然を全身で感じられる「くじゅう花公園」に足を運んでみてください。

季節の食材を生かした料理店

㊨取れたての野菜が食べられる竹田市の「ビストロ＆クッチーナ　シャンピ」㊧シカやイノシシの肉を使ったジビエ料理

松竹祐介さん

竹田市には、取れたての新鮮野菜が食べられるおしゃれなお店「ビストロ＆クッチーナ　シャンピ」があります。「シャンピ」はフランス語で「きのこ」という意味があり、ペンションきのこⅡ世号で料理を作っていた松竹祐介さん(45)が2013年に開店しました。

松竹さんは、ペンションで働きながら「もっといろんな人に食べてもらいたい」という思いを持っていたそうです。そして8年前、竹田市で水害が起こり、寂しい町になったと感じた松竹さんは「たくさんの観光客でにぎわう町になってほしい」と、お店を開くことを決めました。

お店では、竹田市産食材100％を目指し、竹田市の野菜や肉を使っています。メニューは日替わりで、季節ごとの食材が味わえるのも特徴です。特に、シカやイノシシの肉を使ったジビエ料理が有名です。

松竹さんは、高校、専門学校を卒業後、フランスで2年間ほど修業していたそうです。料理は、その日のフィーリングや経験から想像して作り、日本人でもなじみのある味にするよう心掛けているそうです。

早朝から真夜中まで仕事をする日も多いという松竹さんですが、「お客さまから『おいしかったよ』『また来るね』などと声を掛けてもらうと、きつさもなくなります」と笑顔で話していました。

感動の景色を創る

四季を感じさせる色とりどりの花々。どうやって咲かせているか分かりますか？　花公園のバックヤードをのぞいて見ると、手際よく種をまいている人たちがいました。全員が女性で、4年前に大分合同新聞で紹介された「七人の女侍」と呼ばれる方々です。

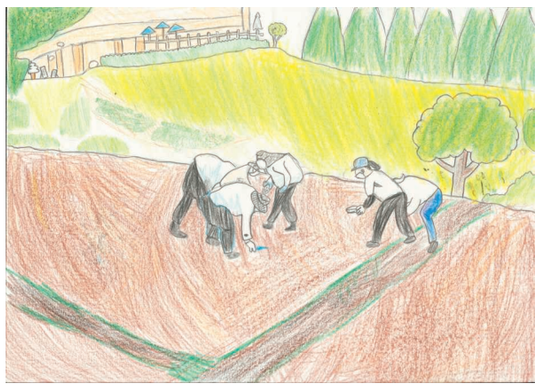
6月下旬のこの日、植えていたのは小ぶりのヒマワリ「サンフェスタ」の種で、お盆に咲くよう準備していました。一粒一粒、図面に合わせて手作業で植えていく上、天候も関係するので、一つの畑の作業に数日から1週間ほどかかるそうです。

植え付けのメンバーは、20代から70代の幅広い年代で構成されており、20年以上、この仕事を続けている方もいます。

岩元美樹さん(28)は、観光客として初めて訪れた時に花公園の広大さと花の種類の多さに感動し、就職を決めたそうです。伊藤由美子さん(72)は、同じ姿勢がきついと腰痛には悩まされていますが「お客さまが感動してくれる景色を創るこの仕事が好きです。花が咲いた時は痛みを忘れてしまいます」と話してくれました。

久住が誇る素晴らしい花景色は、花を愛する〝縁の下の力持ち〟の存在があってのことだと分かりました。

㊤㊦花公園を支える女性たち



私たちが作りました

新聞ができるまで　竹田市久住小　地域の頑張る人に光

くじゅう連山の麓に広がる高原地帯に位置する竹田市久住小学校。近くには豊かな自然を満喫できる観光施設などがある。地域の魅力を広め、多くの人に来てもらおうと６年生16人が新聞作りに取り組んだ。

「地域で頑張る人たちにスポットを当てよう。新しいことを知る喜びを楽しんで」。大分合同新聞社竹田支局の原田宏一記者(43)から取材の仕方を教わった児童は学校を飛び出し、取材に出掛けた。

春から秋にかけ、県内外の観光客でにぎわうくじゅう花公園では、塩手亨園長(59)から園内を美しい花で彩り、リピーターを増やす工夫などの説明を受けた。畑に種をまく様子も見学。「七人の女侍」と呼ばれる20～70代の従業員にインタビューし、地道な作業の積み重ねで美しい光景が生まれることを学んだ。

老舗「ペンションきのこⅡ世号」を経営する松竹直人さん(72)、真理子さん(72)の夫婦からはアットホームな雰囲気づくりの気配りについて耳を傾け、敷地内にある天文台も見学。長男祐介さん(45)が2012年の大分県豪雨をきっかけに「被災した市中心部に活気を取り戻そう」と翌年に店を構え、独立したことを聞いた。

取材後、分かりやすく記事を書き、大分合同新聞社ニュース編集部の船山善弘記者(49)から見出しやレイアウトについて教わった。地域の魅力や思いが詰まったカラフルな紙面が完成した。

㊧竹田支局の原田宏一記者から取材の仕方や記事の書き方を学んだ（2021年６月22日）㊥くじゅう花公園でサンフェスタの植え付け作業をしていた人たちにインタビュー（同）㊨「記事の内容がひと目で分かる見出しを付けよう」とグループで話し合った（９月10日）

大分合同新聞 プレミアムオンライン Gate ゲート

動画

新聞づくりの様子をご覧いただけます

この企画は小学生（主に５、６年生）が、地域の魅力や課題を取材し、新聞にまとめる作業を通して古里を見詰め直すことを目的としています。問い合わせは大分合同新聞社地域連携室「飛び出せ学校」係へ。☎097・538・9729、Ｅメールnie@oita-press.co.jp